

体育科学習指導案

日時 令和1年10月4日(金)
児童 札幌市立伏見小学校 5年3組28名
授業者 秋元 来舞

I. 単元 器械運動 「跳び箱運動」

II. 単元について

跳び箱運動は、日常生活ではあまり経験できない「腕支持感覚」、「回転感覚」、「逆さ感覚」等の多様な運動感覚を味わうことのできる運動である。また、子どもにとって『できる・できない』がはっきりしている運動のため、できないと感じる子は苦手意識をもちやすい運動でもある。

本学級の児童は、体育の授業に意欲的に参加し、仲間と励まし合いながら、一緒に課題を乗り越えようとする子が多い。しかし、跳び箱運動に対しては、学級の7割程度の子が苦手意識をもっている。中学年の時には、易しい場での台上前転を行った。その際、「跳び箱から落ちそうで怖いからできない。」「腰が上がらないから、前転できない。」と、易しい場での台上前転でもなかなか成功体験を得ることができず、自分は跳び箱が『できない』と感じてしまっている。

そこで、本単元では跳び箱運動で味わうことのできる『感じ』を単元の柱に学習を進めていく。『感じ』とは、「踏切で腰がビョーンと上がる感じ」、「台の上でクルッと回る感じ」、「台からストンと落ちる感じ」など、開脚跳びや台上前転など運動の一連の流れの中にあり、運動する主体が受け取るものである。この『感じ味わう』ことを単元の柱に学習を進めることで、「できる・できない」に捉わられることなく運動に夢中で浸ることができると考えた。自分の好きな『感じ』を追い求め、夢中になって運動に取り組む中で、技能を獲得する子どもの姿をねらう。

III. 単元の目標

- ・ 切り返し系や回転系の基本的な技を安定して行ったり、その発展技を行ったりすることができるようにする。【知識及び技能】
- ・ 自己の能力に適した課題の解決の仕方や技の組み合わせ方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。【思考力、判断力、表現力等】
- ・ 運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や器械・器具の安全に気を配ったりすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】

IV. 研究との関わり

視点1 主体的・対話的な姿を生む教材化と学習過程

本単元では、自分の好きな『感じ』を見付け、自分に合った場を選択しながら運動する中で、技能を高めていく姿を目指す。そのために以下の二つの手立てをうつ。

一つ目は、「My〇〇」の設定である。一次、二次の初めに、簡易化された場で開脚跳びや台上前転を行う。その際、自分はどこの動きの感じが好きなかのワークシートに書き込む。この好きな感じが「My〇〇」である。「My〇〇」を設定することで、「自分の好きな感じをもっと味わいたい。」と、進んで運動に取り組むのである。

二つ目は、技能を身に付けるための着目点の積み上げである。単元を通して、助走・踏切・着手・空中姿勢・着地のために必要な技能のポイントを学級全体で共有しておく。そうすることで、本時の中で『感じ』と『技能』を結びつける素地を養うことができる。

視点2 主体的・対話的な姿を生む関わり

本時では、自分の好きな台上前転での『感じ』と『技能のポイント』を結び付ける姿をねらう。そのために以下の二つの手立てをうつ。

一つ目は、問題意識の醸成である。本時の初めに、前時までに様々な場で好きな感じを味わえた子に試技をしてもらう。その後、教師は試技した子は何を意識していたのかを覗いていた子に問う。すると、「腕じゃないかな。」「踏切かもしれない。」と、技能のポイントに目が向き、「自分の好きな感じを味わうためには、どう動いたらいいのかな。」と、問題意識をもつのである。

二つ目は、子ども同士の関わりを生む教具、板書の工夫である。どの動きを意識して跳んでいるのか板書にある台上前転のイラスト上にネームカードを貼ったり、腰の高さや着手した場所が見えるように印を付けたりする。そうすることで、動きを見合う際の視点が定まり、「今のは、腰がここまで上がっていていいね。」と、具体的な言葉を使って子ども同士が関わり始めるのである。

視点3 深い学びを生む評価

『感じ』と『技能』を結びつける教師の即時的な関わりを重視する。「強く踏み切ったから、ビョーンと腰が上がって、好きな感じを味わうことができたね。」と、子どもの動きを価値付けする。そうすることで、子どもは自分が見付けたこの有用性を実感し、意欲的に運動に取り組む『感じ』と「技能のポイント」を結び付けていくのである。

VI. 単元計画

1 評価規準

	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
単元の評価規準	・ 繰り返し系や回転系の基本的な技を安定して行ったり、その発展技を行ったりすること。	・ 自己の能力に適した課題の解決の仕方や技の組み合わせ方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える。	・ 運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や器械・器具の安全に気を配ったりすること。
学習活動に即した評価規準	① 開脚跳びをすることができる。 ② 台上前転をすることができる。 ③ 基本的な技を安定して行うことができる。	① 自分の課題を考え、その課題に合った場を選択できる。 ② 自分の好きな感じを味わうためのコツについて考え、友達に伝えようとしている。 ③ 友達が好きな感じを味わうためのコツについて、どのように動けばよいか伝えようとしている。	① 器械・器具を設置したり片付けたりする際に、運搬の仕方や設置する場所に気を配っている。 ② お互いの動きを見る際の場所や跳ぶ順番などの約束を守りながら運動している。 ③ 仲間の考えや取組を認め、積極的に運動に取り組んでいる。

2 領域別系統表

	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
低学年 第1学年及び第2学年 器械・器具を使った運動遊び 「跳び箱を使った運動遊び」	跳び乗りや跳び下り、手を着いてのまたぎ乗りやまたぎ下りをする事。	器械・器具を用いた簡単な遊び方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えること。	運動遊びに進んで取り組み、順番やきまりを守り誰とでも仲良く運動したり、場や器械・器具の安全に気を付けたりすること。
中学年 第3学年及び第4学年 器械運動 「跳び箱運動」	繰り返し系や回転系の基本的な技をすること。	自己の能力に適した課題を見付け、技ができるようになるための活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えること。	運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりすること。
高学年 第5学年及び第6学年 器械運動 「跳び箱運動」	繰り返し系や回転系の基本的な技を安定して行ったり、その発展技を行ったりすること。	自己の能力に適した課題の解決の仕方や技の組み合わせ方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。	運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や器械・器具の安全に気を配ったりすること。

3 指導と評価の計画

単元構成 6時間扱い

次	時	ねらいと学習内容	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	評価方法
一次	1	<p>テーマ1：My開脚跳びをしよう！</p> <p>ねらい：My開脚跳び（自分の好きな感じ）を求める中で、好きな感じを味わうためには、着手や踏切などの要素が大切であることに気付き、開脚跳びをすることができる</p> <p>フワッと落ちる感じが好きだな 手を突き放すのが難しいな パンと踏み切ると楽しいよ</p> <p>自分の好きな感じを味わうためには、どう動いたらいいかな？</p> <p>踏み切ってビヨンと体が上に上がる感じが好きだよ 体が逆さまになりそうでならぬ感じが好きだな フワッと落ちる感じって楽しいよね</p> <p>① ① ①</p>	①	① ②	① ②	<p>発言内容</p> <p>行動観察</p> <p>学習カード</p>
		<p>そのために…</p> <p>踏切の強さが大切なんじゃないかな おしりを上げるのが大切だよ。そのために、踏切を強くしよう しっかり突き放すと、フワッとした感じを味わえたよ</p> <p>着手する位置や踏み切り方を意識すると、My開脚跳びをすることができるね</p> <p>感じと技能のポイントが結びつく</p>				
二次	3	<p>テーマ2：My台上前転をしよう！</p> <p>ねらい：自分の好きな感じを追い求める活動を通して、自分の好きな感じは助走や踏切、着手などを意識することで味わえることに気付き、好きな感じを味わいながら台上前転を行うことができる。</p>	②	② ③	① ②	<p>発言内容</p> <p>行動観察</p> <p>学習カード</p>
		<p>4</p> <p>易しい場で自分の好きな感じを見つけよう！ 色々な場で自分の好きな感じを味わおう！</p> <p>僕はクルンと回る感じが好きだな。他の場でもやってみたいな 私は、ストンと落ちる感じが好きだな。この感じを味わいたいけど…</p> <p>他の場でも好きな感じを味わえるようになりたいな</p> <p>5 (本時)</p> <p>自分の好きな感じを味わうためには、どう動いたらいいかな？</p> <p>クルンと回る感じを味わうためには… ビヨンと跳びたいから…</p> <p>そのために…</p> <p>しっかりと手を伸ばして着手して、体を支えることで、クルンと回れるようになるよ 強く踏み切ると体が上に上がる感じを味わえて台上前転ができるよ</p> <p>強い踏切をして腕でしっかり体を支えると腰が上がって、自分の好きな感じを味わいながら台上前転をすることができたよ</p> <p>感じと技能のポイントが結びつく</p>				
三次	6	<p>テーマ3：My開脚跳び My台上前転の完成度を上げよう！</p> <p>ねらい：身に付けた知識や技能を活用しながら、安定して技を行えるようにする。</p> <p>踏切を意識して台上前転をすると、何度も成功することができたよ 手を付ける位置を意識して、しっかり突き放すと開脚跳びは完璧だね</p> <p>安定して開脚跳びをしたり、台上前転をしたりすることができるようになったね！</p>	③	③	③	<p>行動観察</p> <p>学習カード</p>

注) 学習活動に即した評価規準は、前項の「1 単元の評価規準」に示している。

V. 本時の展開 (5/6)

1 目標

- ・台上前転を行うことを通して、踏切や着手、腰の高さなどの行い方を意識することで、味わえる感じが違うことに気付くとともに、安定した台上前転を行うことができる。

【知識及び技能】

2 展開

学習内容	評価規準と指導の手だて等
<p><前時まで> 前時まで、子どもは易しい場で台上前転の好きな感じを見付けたり、様々な場で好きな感じを味わおうとしたりしている。様々な場で台上前転を通して、自分の好きな感じを味わうためには、どのように動くとよいか考え始めている。</p>	
<p style="text-align: center;">My 台上前転をしよう!</p> <p>○準備活動 ・挨拶 ・準備運動</p> <p>○学習課題の把握 ・前時、好きな感じを味わえた子の試技 ・自分が考える動きのポイントにネームカードを貼る</p> <p>私もクルンを味わいたいけど、手が大切だと思うな</p> <p>体が上がる感じを味わう時も、踏切が大切だと思うな</p> <p>僕は腰にヒントがあるんじゃないかと思うよ</p>	<p>【安全に関する配慮事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・けがのないように、互いの服装に気をつけたり、試技の前後に器械・器具の安全に気を配ったりできるように指導する。 ・手の着き方や着地に関しては、単元導入時に指導する。 <p>○本時の初めに、前時に好きな感じを味わえた子による試技を行う。その後、試技した子は好きな感じを味わうために、何を意識していると思うか、観ていた子に問う。そうすることで、「腕が大切だと思う。」「踏切じゃないかな。」と、技能のポイントに目が向き、「好きな感じを味わうためには、どう動いたらいいかな」という問題意識が生まれる。</p>
<p>自分の好きな感じを味わうためには、どう動いたらいいかな?</p> <p style="text-align: center;">技能のポイントを追求</p> <p>○主運動</p> <p>腰を上げるために、踏切を強くするから見ていて!</p> <p>踏切が強く、腰が上がっていたよ</p> <p style="text-align: center;">助走 踏切</p> <p>台を押すように着手して、しっかりと腕で体を支え、腰が高く上がって、ビヨーンとした感じを味わえたよ</p>	<p>○自分が意識する技能のポイントを、ネームカードを貼ることで示すようにする。そうすることで、動きを見合う時の視点が定まる。</p>
<p>体が上に上がる感じを味わいたい! そのために...</p> <p style="text-align: center;">跳ねる ビヨーン</p> <p style="text-align: center;">着手</p> <p>回る クルン</p> <p>体が回る感じを味わいたい! そのために...</p> <p>しっかり腕が伸びているか見てくれる?</p> <p>しっかり腕が伸びていたよ。腰も高く上がっていたよ</p> <p style="text-align: center;">回転 姿勢 着地</p> <p>落ちる ストン</p> <p>ストンと落ちる感じを味わいたい! そのために...</p> <p>助走の勢いを使うと真っすぐ回れるよ。真っすぐ回ると、きれいに着地ができるよ!</p>	<p>○どれくらい腰が上がっているか、頭のどの部分が着いているのか等が分かるように、印を用意する。そうすることで、「今のは、ここまで腰が上がっていたよ。」「手の着く位置をもっと手前にするといいと思うよ。」と、具体的にアドバイスをしながら関わられるようになる。</p>
<p style="text-align: center;">自分の好きな感じを味わうためには○○が必要なんだ!</p> <p>強い踏切をして腕でしっかり体を支えると腰が上がって、自分の好きな感じを味わいながら台上前転をすることができそうだよ</p>	<p>○授業の後半、感じと技能のポイントを結び付けるために、教師は「今どんな感じだった。」と、声掛けをする。すると、子どもは「ビヨーンとした感じ。踏切を強くしたからだ。」と、感じと技能のポイントを結び付け始める。</p>
<p>強く踏切をして、腰を上げようと思っているから見ていて</p> <p>いい踏切だったね! どんな感じがした?</p> <p>クルンを味わうために、腕を伸ばすから見ていて</p> <p>しっかり伸びていたよ! クルンは味わえた?</p> <p style="text-align: center;">好きな感じと技能のポイントを結びつけることができた</p> <p>○整理活動 ・振り返り、学習カードの記入、整理運動、挨拶、後片付け</p>	<p style="text-align: center;">知識及び技能</p> <p>台上前転を行うことができる (評価方法) 行動観察 学習カード</p>

感じる!! 跳び箱千しゃしんぎ!



月 日 ()	回目
よくできた: ◎ できた: ○ もう少し: △	
基本的な技を安定させて行うことができました!	
決まりを守って運動したり、友達と協力したりすることができました!	
自分の動きを知り、自分に合った練習をすることができました!	
ふりかえり	

月 日 ()	回目
よくできた: ◎ できた: ○ もう少し: △	
基本的な技を安定させて行うことができました!	
決まりを守って運動したり、友達と協力したりすることができました!	
自分の動きを知り、自分に合った練習をすることができました!	
ふりかえり	

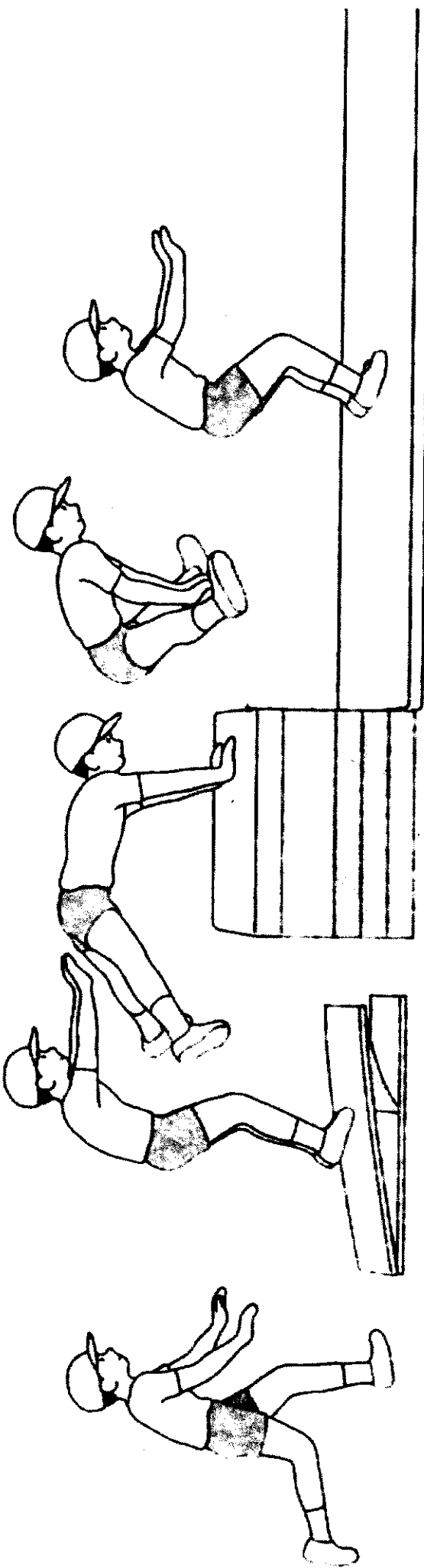
練習のめあて

仲間との関わりのめあて

5年 組

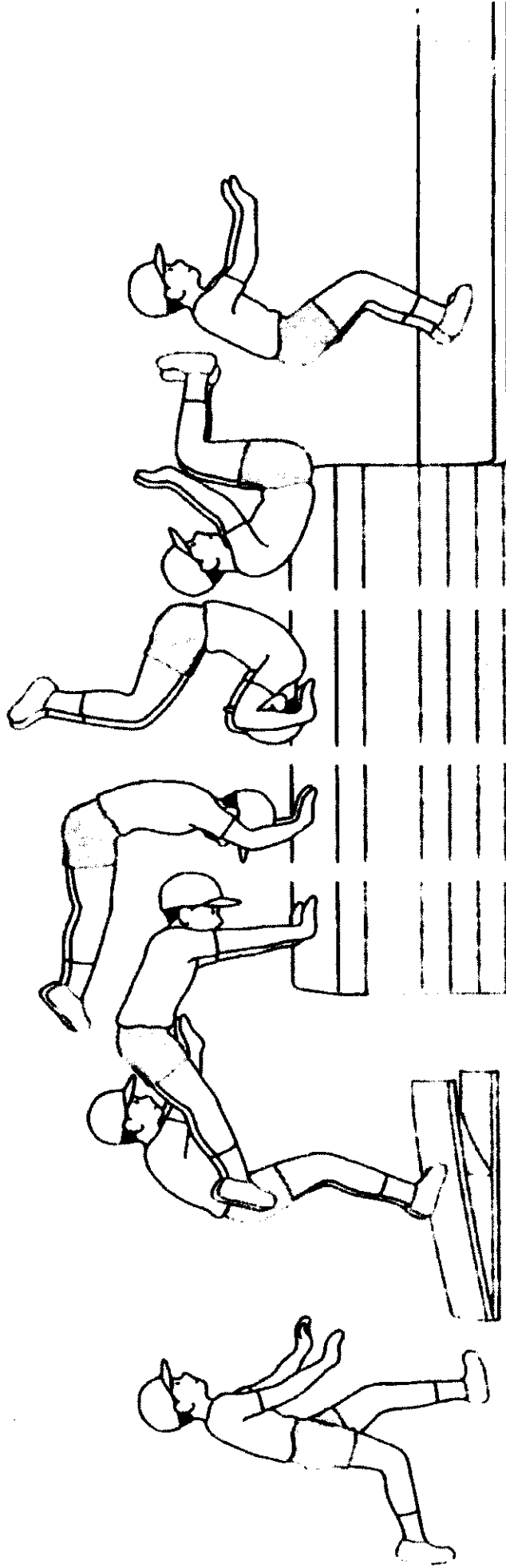
名前 ()

感じ



ポイント

感じ



ポイント

